

本誌では58号(2006年)より3回にわたり、滋賀県放射線技師会におけるJICA草の根技術協力事業でのベトナムへの放射線防護技術支援に関し、滋賀県放射線技師会国際交流委員会委員長 門前先生にご紹介頂いて参りました。今回、滋賀県放射線技師会 今井方丈先生による第4報をご紹介します。

滋賀県放射線技師会における JICA「草の根技術協力事業」第4報

ーフェーズⅠからの展開ー

社団法人 滋賀県放射線技師会
滋賀医科大学医学部附属病院 放射線部
副部長、診療放射線技師長
今井 方丈



今井 方丈 先生

1. はじめに

2005年に滋賀県放射線技師会と国際協力機構(以下JICA)との間で締結された“草の根技術協力事業「ベトナム社会主義共和国放射線技師への放射線技術支援」”は予定通り遂行され、2008年7月に開催されたClosing meeting(ホーチミン市)にて、無事終結を迎えました。そのClosing meetingにおいて、“今回のcloseは、phaseⅡへのstartである”と、大いなる希望を含めて語られました。

そして実際、フェーズⅠ終結後、早速にも次の2つの展開が見られました。

フェーズⅠからの展開(その1)

2009年2月23日、JICAより「ベトナム社会主義共和国放射線技師への放射線技術支援 草の根事業フェーズⅡに向けての事前調査」の依頼がありました。これを受け、急遽2009年3月10日～15日に訪越し、事前調査を実施してきました。今回の調査結果を基礎に、フェーズⅠの結果を上乗せすることにより、フェーズⅡへ向けての事業計画の概要が明らかになってきました。

フェーズⅠからの展開(その2)

フェーズⅠでは、2年間に亘り、ベトナム社会主義共和国より診療放射線技師8名、放射線科医1名の計9名を研修生として日本に招いて、滋賀県内の臨床病院等を中心に、放射線測定器の習熟ならび

にMRIやCTなど先端医療機器を駆使した臨床研修を行ってきました。フェーズⅠ終結後もカウンターパートナーであるチョーライ病院より引き続いての技術研修を強く要望されておりました。この研修の大半を担ってきた滋賀医科大学医学部附属病院(以下、滋賀医大病院)放射線部としては、2008年度より独自に研修生を受け入れるべく技師室メンバーのコンセンサスの基、準備を進めてきました。そして、2009年3月より滋賀医大病院放射線部の事業としての海外研修生の受け入れを開始しました。

今回は、フェーズⅠの終結、フェーズⅡに向けての事前調査、滋賀医大病院放射線部の海外研修受入事業について、概略をご紹介します。

2. フェーズⅠの終結(第8回訪越事業)^{1) 2)}

2005年に滋賀県放射線技師会と国際協力機構(以下JICA)との間に結ばれたベトナム社会主義共和国放射線技師への技術協力事業の契約が2008年をもって終了となりました。フェーズⅠ最後の海外活動となる第8回訪越事業(2008年7月17日～21日)の概要を記します。

第8回訪越の主目的は、

- ① 契約終了に際しての関連団体への訪問・報告
 - ② 事業最終確認を含めて記念式典・特別講演
 - ③ ベトナム人による学術研修会開催
- でした。

訪問メンバーは、滋賀県放射線技師会の小川

正会長，増田一孝元会長，同会国際交流委員会の
門前 一委員長，上久保賢二委員，高橋昌章委員，
中西 明委員，平田 誠委員，福田哲也委員，松
井久男委員，松尾 悟委員，山元 卓委員，吉村
雅寛委員，そして筆者の総勢13名でした。

2.1. 契約終了に際しての関連団体への訪問・報告 (7月17日～18日)

a) 在ホーチミン日本国総領事館を表敬訪問

在ホーチミンJICA南部連絡所の中島行男所長に
も同行いただき，在ホーチミン日本国総領事館を訪
問いたしました。ベトナムの放射線技師への技術協
力事業について，水城幾雄総領事と会合を持つこと
ができました。ベトナムの現状と我々の事業活動の
有用性やベトナム国への裨益性などを説明いたしま
した。事業内容を良く理解しておられる水城総領事
からは，今後の活動継続や，他地域への技術伝播等
に関しご指南頂きました。

筆者は，研修機関であった滋賀医大病院放射線部
技師長として，本事業は契約終了となるが，研修生
の受入は今後も続けていく予定であることを伝えま
した。そして，Closeではなく，Phase IIへのstart
ということで，滋賀県放射線技師会として，今後の
協力も惜しまない旨を伝えました。



在ホーチミン日本国総領事館で
前：水城総領事
後：左から松井氏，門前氏，小川氏，筆者，
松尾氏，平田氏

b) 在ホーチミンJICA南部連絡所を表敬訪問

次いで，在ホーチミンJICA南部連絡所を表敬訪
問し，中島行男所長，中山隆二調整員と会談いたし
ました。中島所長は気さくな方で，滋賀県放射線技
師会の活動に対しても積極的に協力していただいて
います。中山調整員は，体調面・精神面のケアに気
遣いいただき，大変お世話になっている方です。今

回の訪越が一区切りになることに加え，今後の事業
展開（フェーズⅡに向けて）などについてアドバイ
スを頂きました。



在ホーチミンJICA南部連絡所にて
前：左から中島所長，筆者，松尾氏
後：左から門前氏，中山氏，小川氏，松井氏

c) チョーライ病院を訪問

先方スタッフと本事業フェーズⅠについての意見
交換および今後についてディスカッションをしまし
た。病院長不在の中，副病院長のチュン医師が代表
として歓迎してくださいました。今後もコ・メディ
カルスタッフの育成事業を続けてほしいとの強い要
望がベトナムサイドから出されました。滋賀県放射
線技師会からは日本で研修を受けたベトナム人研修
生がリーダーとなってベトナム国を牽引して欲しい
希望を伝えました。



在チョーライ病院表敬訪問
左から Hiep 医師，門前氏，Hai 医師，Hoa 医師，
Truong 医師，小川氏，増田氏，高橋氏，筆者，
吉村氏，福田氏，平田氏

d) チョーライ病院放射線部の視察

続いて，チョーライ病院放射線部の視察を行いま
した。まず，患者さんの数の多さにビックリしまし
た。そして，忙しく働いている技師さん達のなかに，
懐かしい顔をみつけると，何故かすごくうれしくな
ります。日本で学んだ研修生たちが，放射線防護に

も積極的に取り組んでいるとの報告を受け、研修成果が現れ始めていることを確認できました。

ベトナムでは社会主義という体制からか、研修会など多くの人が一室に会するのは困難なようです。しかし、海外研修で学んだ知識や技術は、帰国後仲間に伝達し、共有していくことが重要であることを理解し、今では伝達講習等を行い知識を広めようとされているようです。

2.2. 事業最終確認を含めて記念式典・研修会

日 時 2008年7月19日 18時～
場 所 WINDSOR PLAZA HOTEL
開会宣言 高橋副会長(滋賀県放射線技師会)
挨拶 Truong副病院長(チョーライ病院)
小川会長(滋賀県放射線技師会)
村田哲己首席領事(日本政府代表)
ベトナム語でスピーチされた。

事業の総括

Hoa 部長(チョーライ病院放射線部)
門前委員長(滋賀県放射線技師会国際
交流委員会)

感謝状交換

研修会(特別講演・教育講演)

『事業総括について』

門前 一(大津赤十字病院)

『放射線部門における危機管理』

今井方丈(滋賀医大病院)

『当院における研修報告』

平田 誠(大津赤十字病院)

『研修成果報告』

Vo Phi Hung(チョーライ病院放射線部)

『研修受入報告』

吉村雅寛(滋賀医大病院)



感謝状交換

左：小川会長， 右：Truong 副病院長

3. フェーズⅡに向けての事前調査³⁾

2009年2月23日付け合意書に定める活動案件「ベトナム社会主義共和国放射線技師への放射線技術支援 草の根事業フェーズⅡに向けての事前調査」のため、急遽訪越することになりました。今回の訪越(平成21年3月10日～15日)についての概要を記します。

ホーチミンとハノイ(片道約2,000km)の往復を含め、実質5日間で以下を訪問するといった、非常にハードなスケジュールでした。

訪問メンバーは、滋賀県放射線技師会国際交流委員会の門前 一委員長、井上泰治アドバイザー、川辺広治アドバイザー、松尾 悟委員、筆者の5名でした(松尾氏とは現地にて合流)。

3.1. 公共機関への訪問

- a) 3/10 在ホーチミン日本国総領事館
(水城総領事)
- b) 3/11 在ホーチミン JICA 南部連絡所
(中島所長，中山調整員)
- c) 3/12 ベトナム政府人民援助調整委員会
PACCOM[ハノイ](Tung 副局長)
- d) 3/12 JICA ベトナム事務所[ハノイ]
(柳川さん，林さん，現地スタッフ)
- e) 3/14 在ホーチミン JICA 南部連絡所
(中島所長，中山調整員)

a) b) d) では事業記念誌「一期一会」を寄贈のうえフェーズⅠ完了の報告をしました。フェーズⅠ遂行中の問題点、日本のODA 草の根無償導入機器、ベトナムにおける医療現状、同国を取り巻く経済環境や政治的背景等を基に、フェーズⅡに向けての事前評価の必要性和その内容を説明し、ディスカッションを行いました。また、フェーズⅠ事業時に作成した小冊子『放射線って?』(ベトナム語版)の増刷の要望があり、滋賀県放射線技師会のロゴと携わったスタッフの名前を入れることを条件に快諾しました。

c) PACCOMでは、NGO ライセンス手続き等の説明を受けました。

e) では 今回のフェーズⅡに向けての事前調査について、最終のディスカッションを行いました。



PACCOM 事務所
左から筆者、川辺氏、Tung 氏、門前氏、井上氏



JICAベトナム事務所(ハノイ)入り口で
左からThuy氏、柳川氏、林氏、筆者、秋山氏、
門前氏、井上氏、川辺氏

3.2. 会議

a) 3/11 チョーライ病院

(Hai 医師と放射線部スタッフ)

フェーズⅠによる成果について、研修部門責任者の Hai 医師および放射線部スタッフたちと意見交換を行いました。研修生達トレーニーが今やトレーナーとなって活動しようとしていることを、Hai 医師からお聴きしたときには、『やった!』と思いました。フェーズⅠでの事業の1つが花を咲かせ、実を結んだようです。

次いで、フェーズⅡにおける事業展開について、両サイドの意見のすり合わせを行いました。

3.3. 病院の視察

a) 3/11 チョーライ病院

(放射線部スタッフ、Hien 看護師、他)

この度新設されたPETセンターを見学させていただきました。

b) 3/11 サイゴン病院

(Thinh 副病院長, Linh 放射線科医,
Hieu 医学物理士)

諸外国からの支援が少ない都心病院の現状把握、環境視察を行いました。ここでは、ベトナムにおける医療の問題点が浮き彫りにされたように思いました。



サイゴン病院内で(後ろは島津製 X 線 TV 装置)

c) 3/11 ホーチミン市がん病院

(Ung Buou 病院, Thinh 副病院長,
Linh 放射線科医, Hieu 医学物理士)

ベトナム南部最大のがん専門病院で、ベトナム全土のおよそ半数のがん患者に対して、治療を行っており、5台の装置で440名もの患者を一日に放射線治療されていました。放射線治療部門の充実に対し、診断部門が非力であることが気になりました。ベトナムでは小児がんが多いそうです。将来を担う子供を救うためにも、このような施設への設備投資、人材育成は必要であると感じたところでした。



ホーチミン市がん病院
小児科病棟内



ホーチミン市がん病院
放射線治療室で

d) 3/13 ホアビン省病院

(土井氏、藤田氏、放射線科スタッフ)

北部の地方病院の医療現状を把握する目的で、ホアビン省病院を視察しました。日本からの支援も潤沢のようでハード面は充実していました。JICAスタッフも3名おられ、衛生面や感染対策等には十分な配慮がなされていました。ここには診療放射線技師として海外青年協力隊隊員の藤田氏がおられ、彼女とベトナム技師への指導、研修等について意見交換をしました。やはり、知識や技術の伝達がままならない点等、見解の一致をみました。ここでもフェーズⅡ事業の必要性を再認識させられました。



ホアビン省病院放射線部長と土井氏との面談



ホアビン省病院玄関にて
中央：藤田氏

e) 3/14 ベンチュ省ロンアン病院

(ロンアン病院スタッフ3名)

チョーライ病院スタッフ8名と共に、ホーチミン市から約片道3時間のロンアン病院を視察しました。以前は病院同志の横の繋がりは非常に希薄であると感じていましたが、ロンアンにおいては放射線防護、安全利用についての知識が行き渡っており、積極的にチョーライ病院スタッフが啓発活動をしていることを感じることができました。草の根のように知識が広がり、放射線医療に対する意識の変化が伺えたことは、非常に喜ばしいことでした。



ロンアン病院
CT画像についての意見交換



ロンアン病院
チョーライ病院スタッフとの意見交換

3.4. 研修会開催

a) 3/14 (土) 研修会開催

(チョーライ病院スタッフ8名)

チョーライ病院スタッフ8名と、北部の現状やフェーズⅡについて活発な意見交換を行いました。チョーライ病院スタッフにとっては、北部への日本支援の偏りが気になるようでした。ベトナムの放射線医療の場において、日本で研修を受けたベトナム人技師を中心に大きな意識改革がおりつつあり、彼らは立場や役割を充分理解されており、全体のレベルアップに一役買おうとしている頼もしい側面も見られました。フェーズⅡについては滋賀県放射線技師会と強固な関係を築いているチョーライ病院を中心に、実施していきたい旨を伝え、研修会を終えました。

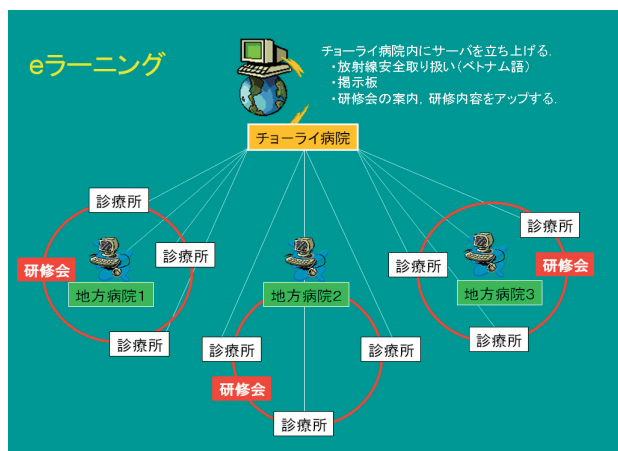
3.5. 事前調査総括

今回の調査はわずか5日間の調査でしたが、フェーズⅡに向けて行すべき方向が見えてきたように思います。フェーズⅠでの『人材育成』が実りつつあり、トレーニーがトレーナーになることにより、医療知識の均てん化、地方病院への伝搬は可能だと考えます。

フェーズⅡでは、ベトナム人によるベトナム人のための教育システム、学会設立のサポートを目的に以下の点について事業を企画検討中です。

- 1) e-ラーニングシステムの構築（インターネットを利用した教育システムの確立）
- 2) がん医療、特に放射線治療に携わるスタッフの技術修練、人材養成
- 3) 診断機器（MRI、CT、RI）などの技術修練
- 4) 定期的な研修会の開催サポート、学会設立支援

- 5) 上記2), 3) 項の核になる人材育成(日本での研修)
6) ライセンス制度確立



4. 滋賀医大病院放射線部の海外研修生受入事業

フェーズⅠでは、9名もの研修生を日本に招いて、滋賀県内の臨床病院等を中心に、臨床研修を行ってきました。フェーズⅠ終了後もカウンターパートナーであるチョーライ病院より引き続いての放射線技術研修を強く要望されておりました。この研修の大半を担ってきた滋賀医大病院放射線部としては、要望を受け2008年度より独自に研修生を受け入れるべく技師室メンバーのコンセンサスの基、準備を進めてきました。そして、2009年3月より滋賀医大病院放射線部の事業としての海外研修生の受け入れを開始しました。当面はJICA事業のカウンターパートナーであったチョーライ病院のスタッフを受け入れることとしました。チョーライ病院研修部門責任者のHai医師と相談のうえ、来日希望スタッフの中から1名を選任していただきました。2008年12月より、日越両サイドで準備に取りかかりました。そうこうしているうちに、筆者に急遽3月の訪越が告げられました。そこでベトナムサイドと話を煮詰め、無理を言って研修生の来日の便をわれわれの帰国の便に合わせていただきました。記念すべき第一号となった研修生は、2009年3月15日～4月25日の6週間の研修を終え、無事帰国されました。私は、この滋賀医大病院放射線部の海外研修生受入事業が、[滋賀県放射線技師会+JICA]事業のフェーズⅠからフェーズⅡへの架け橋であることを信じてやみません。

5. さいごに

忘れもしません。筆者が滋賀医大病院に赴任してきた初日、2006年4月3日(月曜日)、この日はフェーズⅠの第一陣ベトナム研修生3名の初日でもありました。以後、2年間に亘り診療放射線技師8名及び放射線科医1名の計9名が研修に来られ、国際交流の機会を頂きました。さらに、ベトナムサイドより研修の継続を強く要望されるのに対し、これまでの受託事業ではなく、滋賀医大病院放射線部独自の国際交流事業として、海外研修受入の制度を立ち上げることができました。快くこの事業をサポートして頂いた、チョーライ病院研修部門責任者Hai医師、滋賀医科大学馬場学長、服部副学長、柏木副学長(病院長)、国際交流支援室室長相浦教授、NPO法人未来医療推進支援ネットワーク理事長谷教授、放射線部村田部長に深謝申し上げます。また、時間外や横浜での学会参加時において、数々のご援助を頂いた国際交流委員会メンバーをはじめとする滋賀県放射線技師会会員の皆様に感謝申し上げます。そして準備から実施に至るまで、公私両面に亘って、また時間内外にもかかわらず、事業に携わってくれた滋賀医大病院放射線部技師室スタッフに心から感謝申し上げます。

筆者は、2008年7月、2009年3月の2回連続の訪越事業に参加させて頂きました。このような機会を与えて頂きました滋賀県放射線技師会に感謝申し上げますとともに、ご理解、ご協力を頂きました滋賀医大病院放射線部スタッフにお礼申し上げます。

末筆になりましたが、この様な執筆の機会を与えて頂いた島津製作所に感謝申し上げます。

引用文献(参考資料)

- 1) 平田 誠、第8回訪越事業報告 ～ベトナム日記～(JICA 草の根技術協力受託事業第8弾) p.104-p.107、日本放射線技師会雑誌、Vol.55、No.673、2008年
- 2) 平田 誠、JICA 草の根事業記念誌『一期一会』p.57-p.60、社団法人滋賀県放射線技師会、2009年
- 3) 門前 一、平成21年3月訪越活動報告書、2009年